

## SPECIAL REPORT

# 第42回酪農海外現地実務研修会の 結果報告（1）

本会議では、2019年10月16日から26日の10日間、オランダ・フランスにおいて、第42回酪農海外現地実務研修会を開催した。今号より数回に分けて、研修先における特徴的な取り組みなどを紹介する。

## 1. ラボバンクにおけるミルクフレックスファンドの取り組み

ラボバンクは、オランダに所在する協同組合型の銀行（日本の「農林中央金庫」に相当）である。現在は、世界各国に拠点を持っており、アイルランド向けに「ミルクフレックスファンド」という仕組みが実施されている。

これは、農家に対して提供されるファンドで、農家が乳代から返済を行うことが出来るシステム（日本で言う「組合勘定」のようなもの）である。貸し付けは、2万5千～30万€の中で行われ、返済計画は、季節変動に合わせて組まれている。生乳生産量が多い時に多く返済が行われ、生産が少ない時には全く返済しないことも可能である。

もし乳価が3カ月連続して34セント以上上がった場合、返済額は25%加算され、逆に、3カ月連続して乳価が28セント下がった場合は、返済額が59%割引かれる。さらに、それ以上乳価が下がった場合は、支払いが繰り延べられる（先送りされるだけで、支払が免除される訳ではない）。返済期限は、通常は8年に設定され、繰延べが起きた場合は貸付期間を8年から最大10年まで延長することが出来る。

このシステムにより、アイルランドでは、農家が設備や牛に対する投資を出来るようになり、大きな成功を取めた。

このファンドは、アイルランドの大手乳製品メーカーであるグランビア社が始め、約3億5千万€の規模のファンドとなっており、主にこのファンドの成果で、アイルランドの生乳生産額は3.5億€から7億€まで増加すると考えられている。

アイルランドの酪農には競争上の優位点が3つある。

一つ目は、コストが低いこと。放牧主体のアイルランドでは、牛によって牧草の成長が促されている。牧草が伸び過ぎていたら、農家が牛を放って牧草のメンテナンスを行っている。二つ目は、国家レベルで食の持続可能性プログラム「オリジン・グリーン」を実施していること。農家段階でのプログラムとして、「トレーサビリティ」、「家畜衛生」、「動物福祉」、「環境」、「温室効果ガスの排出量」、「エネルギーの利用」、「水の利用」、「生物多様性」などがあり、国家ブランドとして国外にPRすることを市場拡大の取り組みとしている。三つ目は、CO<sub>2</sub>権の利用。アイルランドは他の国に比べてCO<sub>2</sub>権の利用に関して非常に大きな投資をしており、このアドバンテージを世界のマーケットに対して使おうとしている。

しかし、一方では、放牧主体の中で、急激に乳牛頭数が増加し、牧草地での環境問題が課題として生じている。

## 2. フリースランド・カンピーナの乳価決定方式等

フリースランド・カンピーナ（FC）は、欧州で最大の協同組合組織による乳業メーカーである。本拠地をオランダのアメルスフォルトに置き、オランダのほかドイツ、ベルギーにも組合員を有している。

FCが、組合員に支払う乳価は、保証価格と上乗せ価格とに分けられている。保証価格はオランダ、ベルギー、ドイツ、デンマークにおいて、FC以外の乳業者が取引している牛乳製品（約540億kg）の価格（加重平均値）から算出し、月ごとに設定される。FCは、他の乳業者の価格よりも高く製品を販売することで利益を生み出し、その45%を原資として組合員（生産者）に上乗せ価格を支払っている。45%のうち10%相当は企業側から組合員へ融資をする仕組み（回転資金）の原資となってい

る。一方、利益の55%は企業側の経費となっている。

供給過剰となった場合、組合員は、0.1€をFCに支払う。これは罰金という位置づけではなく、FCの業績が良くなるための投資と位置付けている。

乳価は、以前はある程度安定していたが、近年、変動幅が大きくなって来ている。今後、益々変動が大きくなり、FCではそれが当面の大きな課題だと認識しており、供給側を主体とした企業活動ではなく、需要側の嗜好に合わせた活動への転換が模索されている。

2015年にクォータ制度が廃止となり、生乳生産量が急激に増加し、リン酸、アンモニア、窒素、CO<sub>2</sub>などの環境問題が顕在化した。特にアンモニアが大きな課題となっている。このため、もっと栄養価の高い、あるいは健康的な食生活など、需要側の嗜好に合わせた活動に方向性を変えようとしている。

そのためには、牛乳が持つ栄養価や健康的な食生活への振り向けとして「The Merits Milk（牛乳の利点）」という基礎的な考えを持ち「Focus Planet（フォーカス・プラネット）」という独自基準、品質基準、安全基準、

持続可能な商品を作るための基準を設定し「Grass（牧草）からGlass（コップ）まで」を実現するため、様々なことに取り組んできている。フォーカス・プラネットは、生乳生産だけではなく、商品化、輸送も含めたトータルのチェーンの中で、品質を保証し、透明性を保証し、持続可能性を保証するための包括的なプログラムである。

組合側の基準は、生乳品質および安全性、細菌数、飼料、水質、牛の健康等の基本要件のほか、放牧規制、持続可能に関する規則（子牛飼養管理、アニマルウェルフェア、温室ガス・アンモニア排出基準、土壌の窒素バランス、永久放牧草地に関する基準）などがある。気候に関する面については、生乳1kg当たりの温室効果ガス排出量が、どの程度になるかという基準を設定する。生物多様性といった面では、アンモニアの排出量、土壌の窒素バランス、永久牧草地に関する基準なども設けている。また、組合員は「放牧ファンド」に生乳100kg当り35€、「持続可能ファンド」に25€を積立て、業績が良ければそのファンドから割戻しがあるという仕組みを作っている。



第42回酪農海外現地実務研修団